

G I G Aスクール環境下における体育授業の充実 実践研究校 研究報告

器械運動

山口市立小郡中学校（山口県）
電話番号 0839-73-0508
メールアドレス ogori-j@yamaguchi-ygc.ed.jp

●実践研究のねらい

- 生徒一人ひとりの特性や技能の到達度に応じて自ら自己調整しながら学習に取り組むための、ICT機器の活用
- 良い演技を認め合ったり、仲間の学習を援助しようとしたりするなど、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとする態度を養うための、ICT機器の活用

●具体的な活用方法

- 《協働的な学び》 知識・技能の定着を助けるデジタルドリル
- 《協働的な学び》 意見・回答の即時共有を通じた効果的なグループ別学習

●指導の工夫

指導の工夫①

- プレゼンテーション資料の提示を積極的に行い、生徒一人ひとりが技のポイントを理解しやすいように工夫した。

指導の工夫②

- 遅延カメラを活用し、自己の動きをリアルタイムで確認しながら課題に挑戦できるように、場の設定を工夫した。

指導の工夫③

- 生徒一人ひとりのタブレット端末に、グループ活動での話合いに必要な資料を配付し、必要に応じて、資料を確認しながら話合いを進められるようにした。

●授業の様子



【プレゼンテーション資料の提示】
技のポイントをプレゼンテーション資料を活用して提示

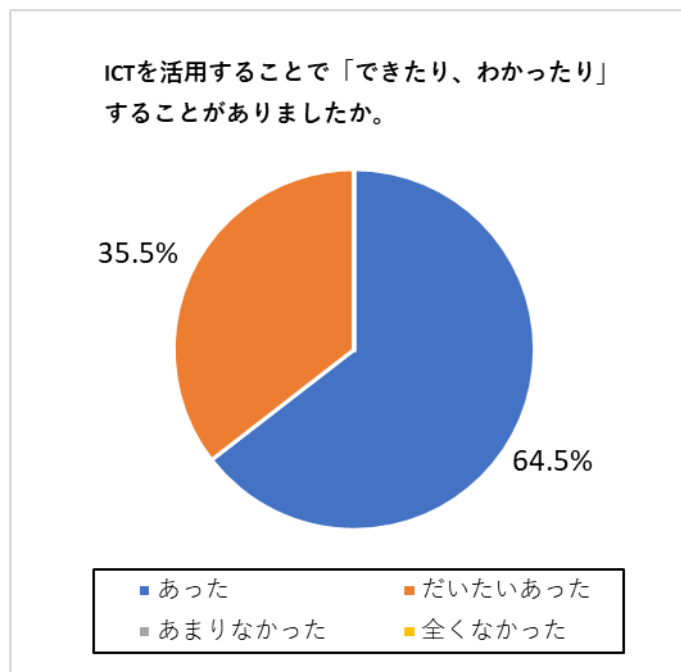


【タブレット端末に配付した資料を活用した話合い】
集団マットの演技構成の話合い

●児童生徒の資質・能力の育成状況、取組み方や意識の変容など

【児童生徒の資質・能力の育成状況】

- ICT機器を活用することで、「できたりわかったりすることがあった」「できたりわかったりすることがだいたいあった」と回答した生徒が100%であり、知識及び技能の習得に効果的だった。



【取組み方や意識の変容】

- 「マット運動は好きですか」という質問を単元前と単元後にアンケートで実施したところ、「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒は、単元前は30%だったが、単元後は75%に増加した。

●成果

- プレゼンテーション資料や遅延カメラの活用により、技のポイントを理解したり、自己の動きを確認したりしながら技に挑戦できるようにすることができた。
- ICTを活用して協働的な学びを充実させたことにより、「仲間との協力」や「グループでの意見の提案」に対して、「できた」という達成感を味わう生徒が増加した。

●課題

- 苦手な生徒にも活躍の場を設定するような演技構成の話合いは充実したが、個人や集団での技の完成度を高めるための活動とのバランスの取り方が課題となった。